

## ゆうちょ銀行の最近の動向

主席研究員 重頭ユカリ

### 1 16年3月の預金残高増加率は0.1%

2016年3月末のゆうちょ銀行の預金残高は177兆8,720億円と、前年同月に比べて約1,612億円(0.1%)増加した(第1表)。

預金種類別にみると、預金全体の6割近くを占める定額貯金等の残高が前年同月比0.5%の減少に転じた一方、流動性預金のうち振替貯金の増加率が18.1%と高い。

### 2 定額貯金等は前年比減少に

第1図は、預金種類別に四半期ごとの前年比増減額のデータが取得できる11年3月末からの推移をみたものである。

10年～11年には20兆円といわれる規模で定額貯金の満期が到来し、それに合わせて満期金の再預入や現金、通常貯金からの新規預入に対する金利上乘せキャンペーンが行われた。その成果もあってか11年度後半からは定額貯金等の増加額が拡大し、12月末には預金合計の残高減少にも歯止めがかかった。12年から

は、定期貯金の減少額と定額貯金等の増加額がほぼ対照的な動きを示しており、定期貯金の満期到来時に、定期ではなく定額貯金に預け替える人が多かったとみられる。超低金利下で、6か月経過後は払出し自由という定額貯金の商品特性が好まれたのであろう。

しかし、定額貯金等の前年比増加額は15年にかけて縮小し、16年3月末には前年比減少に転じた。残高の前年比減少は、四半期データが取得できる11年以降で初めてのことである。これには、日銀のマイナス金利導入を受けて、2月と3月に預金金利が引き下げられたことが影響している可能性もある。

### 3 振替貯金は前年比増加額が急増

一方、16年3月末の振替貯金の前年比増加額は2兆1,272億円と、11年以降で最も大きい額となった。振替貯金は、送金や決済に利用されており、利子は付かないが預金保険法に定める決済性預金として全額が保護される。

また、振替貯金の残高は預入限度額に算入されず、定期性貯金や通常貯金の合計が預入限度額を超えた場合には、総合口座に附加された振替貯金に入る。

こうした特徴を踏まえると、近年、振替貯金の残高増加が続いている要因としては、満期到来した預金の利息など限度額を超過する資金が流入していることがあるとみられる。加えて、ゆうちょ銀行が取引拡大に力を入れている法人が決済口座として利用するケース

第1表 ゆうちょ銀行の預金残高の動向

(単位 百億円、%)

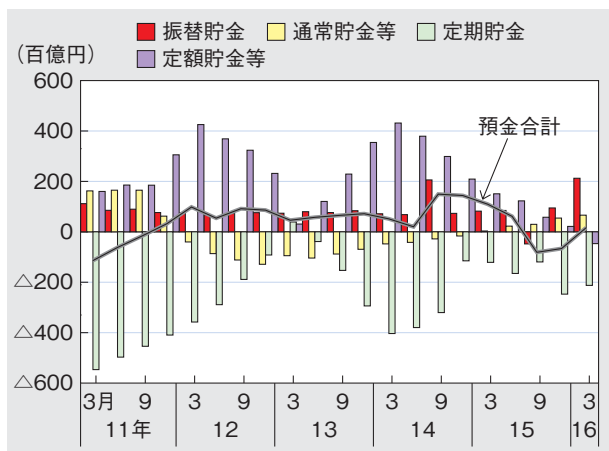
	残高	構成比	前年同月比増加率					
			16年 3月末	15年				16年 3月末
				3月末	6月末	9月末	12月末	
預金残高合計	17,787	100.0	0.6	0.3	△0.5	△0.4	0.1	
うち流動性預金	6,383	35.9	1.4	1.7	△0.3	2.4	4.6	
振替貯金	1,387	7.8	7.5	7.4	△3.8	8.2	18.1	
通常貯金等	4,957	27.9	0.1	0.5	0.6	1.1	1.3	
貯蓄貯金	39	0.2	△0.7	△0.7	△0.8	△0.6	△1.3	
うち定期性預金	11,385	64.0	0.3	△0.4	△0.5	△1.9	△2.2	
定期貯金	1,144	6.4	△8.2	△11.7	△8.8	△17.1	△15.7	
定額貯金等	10,241	57.6	1.5	1.2	0.6	0.2	△0.5	

資料 ゆうちょ銀行「決算補足資料」

(注) 1 ゆうちょ銀行では、預金種類名には「貯金」という用語を利用。

2 通常貯金等、定額貯金等には、(独)郵便貯金・簡易生命保険管理機構からの預り金で、同機構が日本郵政公社から承継した特別貯金を含む。

## 第1図 預金種類別の前年同月比増減額



資料 第1表と同じ

が増えていることも要因と考えられよう。

第1図からは、振替貯金の前年比増加額は14年9月末にも急増したことが分かるが、これは日本郵政グループ内での資本政策による一時的なものであった。1年後の15年9月末に、その反動で残高が前年比減少したのを除くと、前年比増加額はおおむね7,000~9,000億円程度であった。それに比べると、16年3月末の増加額は、2~3倍程度と極めて大きい。

ゆうちょ銀行はその要因について公表していないが、少なくとも14年9月末の資本政策のような特殊要因ではないようである。前述の預金金利の引下げにより、定期性預金への預入意欲が減退し、流動性預金に資金を滞留させた影響もあろうが、これほど多額の増加を説明する要因とは考えにくく、今後引き続きその動きを注視していきたい。

### 4 限度額引上げと定額貯金の満期到来

ゆうちょ銀行では、16年4月から預入限度額がこれまでの1,000万円から1,300万円に引き上げられた。しかし、マイナス金利導入の影響で資金の運用環境が一段と厳しくなっていることもあり、キャンペーンを行う等により積極的に預金残高を増やそうといった動きは

みられない。4月以降の残高データはまだ開示されていないが、同行は、5月に開催された決算説明会で、限度額引上げの影響はないと説明している。

他方、今後は定額貯金の満期到来額が増えることが見込まれている。ゆうちょ銀行では、1980年度以降定額貯金が10年ごとに大量満期と預入を繰り返しているが、今後見込まれるのはその動きとは別のものである。ちょうど10年前の06年には、日銀が3月に量的金融緩和政策の解除、7月にゼロ金利政策の解除を決定した。それを受け、06年4月には定額貯金(3年以上)の金利が0.06%から0.10%に引き上げられ、5月に0.15%、7月に0.30%となり、翌3月には0.35%、6月には0.40%に上昇した。この金利上昇に合わせて、定額貯金への預入が急増したが、その満期が到来すると見込まれているのである。

16年度の満期到来額は、中途解約率に変化がないと仮定すると、ディスクロージャーの定額貯金の残存期間別残高からは、6.9兆円程度(15年度の約4倍)とも推計される。

### 5 投信販売等の手数料ビジネスに注力

運用環境の厳しさから、ゆうちょ銀行が上述の満期到来に合わせたキャンペーンを実施することは考えにくい。一方で、投資信託については残高伸長の余地があるとみており、今後一層投資信託の販売等の手数料ビジネスに注力していくものとみられる。16年2月には、投資信託商品等の開発のために三井住友信託銀行、野村ホールディングスと設立したJP投信の商品の取扱いが始まった。満期金が投資信託に流れるのか、流動性預金に滞留するか、あるいはゆうちょ銀行の外部に流出することはあるのか、その行方が注目される。

(しげとう ゆかり)